



## 第8回ちきゅうCafé

### 効果を「見える化」しよう ～環境保全活動をパワーアップさせる鍵～

10月18日、第8回ちきゅうCafé「効果を『見える化』しよう～環境保全活動をパワーアップさせる鍵～」を、講師に総合地球環境学研究所の共同研究員である浅野悟史さんを迎えて開催しました。

まずは講義内容の背景説明として、従来から環境保全活動では活動の当事者・研究者・行政の思いにズレがあったこと、これを超えるために研究者の間で「超学際研究」

が広まって来たこと、そのためのキーワードは「こんなんできひん？」と、三者の間で互いに問いかけることであると説明がありました。活動の効果を測るための指標（「ものさし」）も、こうしたステークホルダー間の会話や協同作業から生み出されるべきものであることを、滋賀県甲賀市の農村における先生の研究を例に、話してくださいました。この研究は、環境保全活動につながる農法を取り入れた農村において、安心な農産物と環境および地域づくりの効果を測ることを目的としたもので、研究者と農家・住民との会話や作業から、効果を測る「ものさし」としてニホンアカガエルの卵塊数を調べることに決まった経緯とその理由の説明がありました。従来なら、研究者のみで行っていたようなカエルの卵塊を探す作業も農家と共同で行い、卵塊の分布を地理的加重回帰分析という手法で分析、結果報告を農家・住民と分かち合いながら行った結果、何よりその農村の方たちに分かりやすい形でしっかりと効果が測れただけでなく、それによってますます環境保全活動や地域づくりをパワーアップする動機付けとなった成果が紹介されました。このように、ステークホルダー同士が互いの目的を尊重し、また活かすことが、効果の見える化を行う前提として非

14

### 農家さんと一緒に卵塊を調べる

卵塊をマーキングする農家さん (かなり楽しそう)

No. Date

メダケ

マーキングされた卵塊

15

### 材料 (ものさし候補)

ニホンアカガエル *Rana japonica*

- 卵塊を見つけやすい
- 日本固有種であり要注目種 (滋賀県レッドデータ2015)
- 環境: 水辺の陸地; 水田の畦や森林のキワ
- 産卵: 2～3月, 森林に接した水田などに産卵  
⇒ 首目撃されていた卵はこれかも
- 通常, 1頭のメスが1つの卵塊をつくる (Marunouchi et al. 2002)  
⇒ 卵塊を数えることがアカガエルの個体数の目安になる

(研究者の役割: 客観的な評価)

- ・ 保全活動と結びついているか?
- ・ 豊かな環境の指標と成りうるか?

常に重要になる、とのお話でした。

浅野先生はユーモアいっぱいの方で、第8回ちきゅうCaféは始終楽しい笑い声に満ちた時間となりました。参加者には、日ごろから環境保全活動に係っておられる方も多く、実体験から来る質問なども寄せられました。そのうちのおひとりであるCASA会員の本田実さんに感想を伺いました：

うちは最近森林整備の方に力を入れつつあるのですが、お話を聞いて、いつも感じている各局の連携の無さを思い出しました。本来森林は防災の意味からも下流域の人々が関心を持って参加すべきと思いますが、存在そのものも知られていませんし、村の人だけでやっている。下流域の大多数を占める都市の人々が関心をもてば予算も増えるのに、それも適正に使われてなく、箱モノを作る業者のために使われている感すらあります。お話を聞いて、もっと大人に環境についての教育をしなければと改めて感じました。良い意味での昔いたお節介なお婆さんのようなコーディネーターが必要であると思うし、またそのような人が多く現れるのを期待します。

古家 明子 (CASA ボランティア)